

今回は楽器の音色の中でも解説が最も難しいかもしれない、ピアノの音色について解説を試みます。これまで説明したサクソやトランペットでも、例えばチャーリー・パーカーほどのアルトサクソを吹いても彼の音になったと言われていたと書きましたが、一般的には奏者が違う管楽器を吹けば違う音になります。

だからこそ、ミュージシャンは理想の音を求めて楽器やマウスピース(サクソだとリードやリードを締めるリガチャーというアタッチメントも)を変えるわけですし、実際、プロが色々なメーカーの楽器を吹き比べて特徴をコメントするというイベントやyoutube動画もたくさんあります。当然、メーカーの方は、明るい音、暗めの音、硬質な音、柔らかい音などを吹き分けられるように、それに向いたと思われる楽器を作っているわけです。

#### ◎音色の違いーアップライトからコンサートグランドまで

ピアノはどうでしょうか？まず、楽器同士の音質の違いを見てみましょう。新品のピアノをメーカーや機種によって比べた場合、当然音の違いはあります。以前のメルマガでも書いたように、ピアノは弦長が長いほど豊かな響きになるため、弦を奏者から見て奥の方向に張ってあるグランドピアノは奥行きが長い(弦長を長く取れる)機種ほどいわゆる美しい響きになります。

ヤマハのグランドピアノを小型から中型まで弾き比べている動画があったので見てください。アップライトも含めて響きの違いが分かります。

<https://www.youtube.com/watch?v=KiLgqG5B8WM&t=188s>

まず、アップライトとグランドの響きの違いは明らかですね。次にグランドの同士の違いは、この音源では何となくではありますが分かります(生で聴くと明確に違います)。特に低音部は弦の長さによる音質の違いがはっきり現れるところで、弾いている女性もそう話していますよね。

次は日本の2大メーカーであるヤマハとカワイのコンサートグランドピアノを弾き比べた画像を見てください。こちらは、PCで聴いてもはっきりと分かりますね。先程のヤマハは、機種が違って同じポリシーで音作りをしているのに対して、カワイは明らかに違う音質を志向しているのがよく分かります。その狙う音色を出すために、ハンマーフェルトや響板など音色に直接関係する部材を採用しているわけです。

<https://www.youtube.com/watch?v=srd4ral5Vbk>

このように、直後に比較して弾かれた音を聴けば違いが分かりますが、ピアノの場合、管楽器に比べると音色や響きの違いは微妙です。ここでは一旦、楽器の違いによる要素と奏者の違いによる要素を区別しないで、管楽器の音色の振幅とピアノの音色の振幅を単純に比べてみましょう。

例えばアルトサクソの音色を録音された音源で聴き比べてみましょう。フィル・ウッズとポール・デズモンドの音の違いは一度聴いただけで覚えられるほど大きいです。時間が経っても、音源を聴けばどちらが吹いているかはほとんどの人が当てられるでしょう。

#### フィル・ウッズのBody and Soul

<https://www.youtube.com/watch?v=DzkSUutoPns&list=PL7-ILzKb0731cZr1vEq3CmBf7MLBURYOOb>

#### ポール・デズモンドのSkylark

<https://www.youtube.com/watch?v=kPMaG54bSpk>

#### ◎サクソに比べると音色の差は微妙

ピアノの場合はどうかといえば、ジャズライブでもCD音源でも、機種の違いはもちろん、奏者の違いによる「音色」をそこまではっきり聴き分けることはかなり難しいと思われます。先程、ヤマハとカワイのピアノを先程のように同じ条件で聴き比べると違いは感じますが、時間が経って聴いても「これはヤマハに違いない」と分かる可能性は低いということです。

新品の状態でも音色の差が管楽器より少ないことに加え、経年変化や調律の状態、音響環境や聴く位置の違いの方も大きく音色を左右します。録音された音源であれば、マイクセッティングや録音方法も音色を大きく左右します。

余談ですが、状態の良くないピアノであれば、ピッチの狂いだけでなく、アクションやハンマー、弦の劣化によって、「ボヨン」とか「ギーン」としか表現できないようなヒドイ音がするピアノを置いている店も実は少なくありませんが、これは音色以前の問題です。

本筋に戻ると、アルトの音色の違いは奏者による違いを前提として音源を聴いていただきましたが、これは「誰その音色」と感じているリスナーが多いからですし、自分自身もそう感じています。

一方、ピアノの場合は、楽器による音色の違いから入りました。というのも、一般的にはピアノの音色が「違うとすれば」、楽器の違いによるものであり、違う奏者が同じピアノを弾いても音色自体は同じだろうという感覚があるからです。未経験者はそもそも楽器本来の音を出すことが難しい管楽器と違って、ピアノは触ったことがない人であっても(猫であっても!)、鍵盤を押せば同じ音になるという「常識」です。

ところが、ライブで聴いた時に限りますが(しかもピアノにマイクを入れない生音で聴くとさらにはっきりします)、弾き手によって「音色が違う」という感じるのが少なくありません。鍵盤を押さえるダイナミクス(強弱)や、アドリブフレーズの作り方によっても印象は変わりますが、音色そのものが違って聴こえるという現象が確かにあるのです。

何年か前に人気を呼んだ女性のクラシックピアニストを主人公とした「のだめカンタービレ」にこんなシーンが出てきました。コンクールでは、ステージ上に置かれた1台のピアノを入れ替わり立ち代わりエントリーしたピアニストが課題曲を弾くのですが、主人公ののだめが弾いた時には、それまでの奏者とは明らかに音色が違うために、客席で「同じピアノだよね・・・」と聴衆がつぶやくのです。

Lydianでほぼ毎日ピアノを聴いていても、「あ、このピアニストは音が特にキレイだ」と感じるのが結構あります。もちろん、ヴォイシングやフレーズによるのですが、特に音色を感じさせられるわけです。

#### ◎同じピアノでも奏者によって異なる音色

同じピアノを別の奏者が弾いた場合の音色の違いは、経験的にはあるものの、理論的に説明が付きにくいので、長いこと議論の種になってきました。比較的良く知られているのは、指を立てずに指の腹で鍵盤を押さえると柔らかく、指を立てて押さえると明るく硬質な音になるということです。小学生を教えるピアノレッスンで、その違いを生徒自身が理解するという面白い動画があったので見てください。

<https://www.youtube.com/watch?v=Tk9RyLXd09s>

指先の皮膚が鍵盤に触れた後、指の組織が指の骨との間で圧縮され、それ以上圧縮されなくなった時に鍵盤が下に押されてアクションが動きます。指の腹は指先より肉が厚いため、鍵盤が動いてアクションとハンマーを動かす加速度が、指先で弾いた時より小さくなるためと考えられます。

これ以外にも諸説あり、雑音を含めた音色に関する面白い考察があったのでご紹介しましょう。ピアニストによって、指が鍵盤にぶつかる時に生ずる僅かな雑音の違い、それが弦をハンマーが叩く音に混じるために、音色に影響を与えるという説です。

[http://www.piano.or.jp/report/03edc/brain/2011/12/07\\_13493.html](http://www.piano.or.jp/report/03edc/brain/2011/12/07_13493.html)

今回のメルマガの目的は、特にライブの生音で聴けばピアニストによって音色が違うことを知っていただくことにあるので、これ以上の分析は必要ないかもしれません。分析以上に重要なことは、ピアノの音を誰よりも近い所で聴いているピアニストが、自分の音楽をより良く表現できるように、音色もコントロールしようとしていることだと思います。それが、聴き手の耳にも伝わり、美しい音色だと感じられれば最高ですね。それこそが、ライブでピアノを聴く醍醐味でもあると思います。

逆に言えば、それを可能にするピアノが良いピアノだということになります。先日、トップピアニストの信頼が厚いヤマハの調律師の方がLydianにいられてライブを聴き、柔らかくて良い音色だと言われました。うれしかったのですが、実は自分はLydianのピアノが特に柔らかい音色と感じたことはなかったのがちょっと意外でした。

後で思いついたのが、この日のピアニストはとても柔らかいタッチが得意なので、調律師の方もそう感じられたのだろうということでした。明るく硬質な音を好むピアニストが弾くと、この日の音色とは違って、そういう方向の音になるのは経験上分かっています。ということは、Lydianのピアノはピアニストの弾き方によってはっきり音色の違いを出せる楽器なのだと思います。ちょっと自慢でした(笑)。